

ぼくの大作せん

東松島市立赤井南小学校 3年 濱 田 一 颯

夕ごはんの後、お母さんがこまった顔で、

「どうしたら食べてくれるかな。」

と言いました。なぜかという、ぼくの妹は、ごはんをあまり食べないからです。

ぼくは、2年生の行事で、のうきょうの人から、ごはんには、たくさんのえいようがあると、教えてもらったことを思い出しました。

ぼくは、お母さんに、

「しっかり食べないと、体のえいようが、足りなくなるんだよね。」

と聞きました。すると、お母さんは、

「そうだね。ごはんをたくさん食べないと、一颯みたいに強い体になれないね。」

と言いました。

ぼくの妹は、心ぞうのびよう気があります。大きな手じゅつをして、びよういんの先生から、かぜをひかないように言われています。ぼくは、妹にごはんをたくさん食べて、元気になってほしいと思いました。そこで、ぼくは、妹がごはんをたくさん食べてくれるように、作せんを考えました。妹は、ぼくのまねをするのが大すきです。

「ぼくが、おいしいって言いながら、いっぱい食べたら、妹もまねをして食べてくれるかもしれないな。」

と思いました。

いよいよ、作せん実行です。すると、妹は大きな口で、

「おいしい。おいしい。」

と言いながら、食べ始めました。ぼくは、

(やったー。作せん、大せいこうだ。)

と、うれしくなりました。そして、ぼくが、ごはんをおかわりをすると、妹も、おかわりをしました。お父さんもお母さんも、びっくりしていました。

妹は、ごはんをのこさずに、食べられるようになりました。つぎは、野さいを食べられるように、ぼくの作せんはつついています。